

# 情報・データサイエンス・AI パッケージ 自己点検・評価報告書 (令和 4 年度実施分)

教育本部全学教育統括部  
情報教育・データリテラシー部門

## 0. 総評

令和 2 年度より開始したりテラシーレベルで情報と数理、データサイエンス、および AI を広くカバーする情報・データサイエンス・AI パッケージについて、設置審の縛りが外れた情報科学部、総合科学部国際共創学科で必修化し、英語対応も実施した。令和 3 年度は教員と学生、学生間のコミュニケーションが不十分である等の課題も生じていたが、令和 4 年度は、対面クラス、およびオンライン双方向クラスに参加し、コミュニケーションの機会を増やす等により改善した。学年進行中の学部での必修化が次年度以降の大きな課題である。

## 1. 「学内からの視点」における自己点検・評価

設置審の縛りが外れた情報科学部、総合科学部国際共創学科について、本パッケージを令和 4 年度から必修とすることで、履修率を向上させた。英語で授業を提供する総合科学部国際共創学科での必修化に合わせて、必修、選択必修科目の英語対応も行った。

○必修科目である「情報・データ科学入門」では、「学生同士や教員と議論したりプレゼンテーションをしたりする機会がありましたか。」が、選択必修科目でアンケートの回答が 10 を超えている「データサイエンス基礎」、「ゼロからはじめるプログラミング」では、「学生同士や教員と議論したりプレゼンテーションをしたりする機会がありましたか。」、「コメントシートやレポート、オンライン学習支援システム (Bb9) 等で自身の考えを文章で表現する機会がありましたか。」といった項目が全学平均を大きく下回っている。規模の大きいオンライン授業では難しい面もあるが、これらの項目が全学平均を上回っている選択必修科目「教育のためのデータサイエンス」もあり、これを参考にした改善計画を検討している。

## 2. 「学外からの視点」における自己点検・評価

本パッケージは令和 2 年度開始のため、本教育プログラム修了者は在学中で、修了者の進路、活躍状況は未定である。産業界からの視点については、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム作成のモデルカリキュラム(リテラシーレベル)と情報処理学会作成の一般情報教育の知識体系に沿うことで、取り入れている。令和 3 年度より、産業界と共同で開発した SNS シミュレータ (<https://media-literacy.smartnews-smri.com>) を利用した教育実践を行い、また、開発者と共同して、教育効果の評価、他の実践校との比較を行い、学外からの視点も取り入れた授業改善に取り組んだ。令和 4 年度には間に合わなかったが、開発した教材の英語化を進めてもらっており、令和 5 年度より全ての学生が日本語、もしくは英語で SNS シミュレータを利用できるようになる。また、AI 面接等、学生にとって身近なテーマを題材とすることで、データサイエンスに対する態度の育成にもつなげている。

## 3. その他 (特記事項)

本授業では、データサイエンスと AI に関する導入教育、シミュレータを利用した体験型教育等で特色ある実践を行っており、国際会議等で報告することで、国際的な成果の普及と改善に努めている。

参考) "Improving Motivation in Undergraduate Data Science Education by Using Dilemma Problems", Y. Murakami, Y. Sho, T. Inagaki, WCCE2022, Hiroshima, Aug. 2022.

"A Social Media Simulator for Media Literacy Education in Japanese schools and universities", A. Hikita, T. Inagaki, M. S. Maekawa, S. Tajima, Y. Miyazaki, E. Nagasawa, WCCE2022, Hiroshima, Aug. 2022.